



平成26年6月15日 第4巻(第1号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

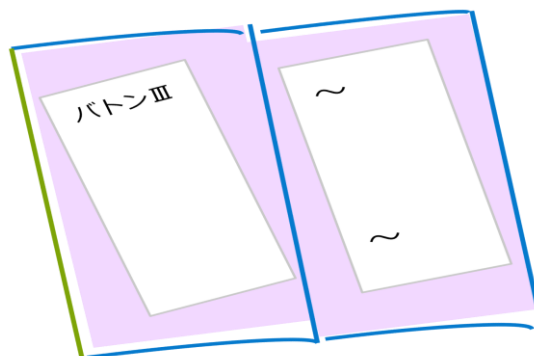
1. 現地職員の紹介(新年度体制)
2. 茨城大会 バザー開催報告
3. 災害支援チームからのお知らせ
4. 災害支援ニュース発行のお知らせ
5. あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」
を発行することとなりました。

2015年2月の発行に向けて

準備中です。

しばらくお待ちください！！



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」

については、「3. 災害支援チームからのお知らせ」をご参照ください。

1. 現地職員紹介

当協会の災害支援活動も4年目となりました。平成26年度の石巻現地職員は、新旧交代もあり新たに2人を迎えることができました。現地職員からのみなさまへご挨拶です。今後とも、よろしくお願いいたします。

畑中 良子さん（石巻現地責任者）

今年度は現地での常駐スタッフが3名となり、活動範囲が広げられるようになりました。今までの歴代常駐スタッフの方が築いてくださった関係があり、地域での会議などへの参加にも繋がっています。現地の状況は刻一刻と変化しています。その変化を感じながら、必要な支援が提供できるよう日々、奔走しています。

私自身は石巻に来て、2年が経ちました。

昨年は石巻市 虐待防止センターで勤務を3.5日、当協会 石巻現地での勤務を1.5

日した事で、市内の状況や地域の特性などが少し掴めたように思います。そして、現地で生活した事で感じられた事もありました。しかし、まだ2年目です。まだまだ分からない事が多い中で同僚のスタッフ、周りの関係機関の方々と協力し合いながら、みなさんの生活が安定するように少しでもお手伝いできればと思います。

全国の協力員のみなさん、一度（もしくは再度）、現地を訪れてみませんか？3年が経った今だからこそ感じるものもあるのかな？と思います。

岡村 翠さん

日本医療社会福祉協会の皆様、はじめまして。2014年4月から災害支援チームの現地担当となりました、岡村翠です。出身は高知県です。みなさん、高知はご存知でしょうか？日本協会では2007年大会を開催させていただきました。他には2010年度のNHKにて、主演を福山雅治さんで『竜馬伝』を大河ドラマで取り上げて頂いたことで注目を浴び、知っただけでいるぐらいでしょうか。

私は、高知県生まれ、高知県育ちの生粋の「はちきん（八金）」です。自称、はちきんソーシャルワーカーとしては2011年3月11日に東日本大震災が起こるまでは、この高知県が日本で最先端の福祉現場であ

ると思っていました。『少子高齢化』、『過疎地域』、『元来の経済的基盤の弱体』などの地域性から生じている様々な福祉的課題でいえば高知が一番ひどく、その中（高知県）で実践している医療福祉関係者を「すごい」と思っていました。日々の仕事のみならず、県下でのソーシャルワーカー活動は、多忙な中でも学びを深め、知恵を絞り、意見を交換させながら様々な仕掛けを作る活動は辛くも楽しい作業でした。私は2012年8月に、日本協会の災害支援で石巻に寄せてもらいました。その時には第二期調査で、ソーシャルワーカーの介入が必要と思われるケースへの電話での安否及び状態確認、または電話では困難な場合は自宅訪問で確

認をおこなっていました。私は海沿いの地域（門脇・渡波地区）や川沿いの地域（河北地区）を車で走り、フィールドワークをさせていただきました。震災から1年半、町中の瓦礫は無くなっていましたが、海沿いの空き地には瓦礫と流された車が壁のように連なり、「テレビで見る風景」という印象が強く残りました。そんな中で家庭訪問させてもらうケースは、震災によってひきおこされた生活課題もありますが、地域既存のケース（高知でよく見かけるケース）が多かったように思いました。そのために被災地支援の継続についても疑問に思っていました。

しかし、東日本大震災以降より、各地で毎年のように起こる自然災害とそれらの報道により見えてくる地域の実情や実態を知る機会になりました。高知もいつか来る南海トラフへの対策が着々と計画されています。私は、災害支援は石巻市に限っていることではないと思っています。いつか、自分の住む地域に災害が起こらないとも限らないことや、自分の大事な人や場所がなくなってしまうかもしれない。その時のため

に、システムやネットワークの構築が必要だと思いました。高知県協会でも震災に関する議論は行いましたが、日々の業務の中で考えていく事の難しさを実感し、「今ここから始められる何か」を見つけたいと思っています。

今の私にとって現地での活動は、生活場所においての様々な大変さもありますが、楽しく、学びの多い日々です。被災地ならではの問題や、課題の抽出。年齢や職種に捉われず、団体に境のない熱い活動など、魅力がいっぱいです。そして、何より、全国のソーシャルワーカーとの交流や大ベテランの先輩方、先生からの直接指導と、ソーシャルワーカーとして学びの多い日々を過ごさせてもらっています。

最後に、石巻市のみならず被害が大きかった地域は、まだ震災の爪痕が見えます。そこに立ち、想いを馳せると胸がつまります。出来れば、多くのソーシャルワーカーの方にそれを感じに来ていただき、「今ここから始められる何か」を一緒に見つけてほしいと思っています。

松川夏実さん

5月より着任しました松川と申します。以前は隣県の山形県で医療ソーシャルワーカーとして勤務しておりました。今回、石巻市へ転居するにあたり、この地で生きていくなら、切り離すことのできない“東日本大震災”にきちんと向き合いたいと思い、災害支援チーム石巻現地担当として働かせ

て頂くことになりました。

現地に来て1ヶ月が経ち、徐々に土地勘がつき、訪問も不安なく1人で行けるようになりました。東北出身であるため、比較的現地の言葉に悩まされることは少ないですが、逆に、他現地職員から「〇〇って方言だよ」といわれ、東北以外では通じないのかという驚きを感じる機会が何度かあり

ました。地域によって言葉や文化が異なり、それに伴い地域性が異なっていることの興味深さを感じながら、合わせて、この地にあった復興や地域づくりとはどのようなものかと考えるようになりました。元々一軒家で暮らしていた人たちが多い地域で、隣壁が板一枚の仮設住宅へ入居することの適応がどれほどのものか、生活音が常に聞こえる緊張感や今まで慣れ親しんだ地域の方々との別れはどれほどのものか。新しいものを作りだすだけではなく、元々の地域性を理解したうえで、既存のものやこの土地の良さを生かした地域づくりが必要な

だと感じています。もちろん、環境に適応しながら、自分らしく豊かな生活をされている方が多いのも事実で、訪問した私たちがパワーをもらって帰ってくることも少なくありません。現地に来て、ケースワークだけではなく地域をどう支えていくのか、災害支援チームの活動がどのように現地へ根付いていくのか…そんな思いをもちながら日々活動させていただいています。まだまだ至らぬ点も多いですが、現地に寄り添えるような活動をしていきたいと思えます。今後ともご指導よろしくお願い致します。

2. 茨城大会 災害支援バザー開催報告

「東日本大震災支援チャリティーバザーのご報告とお礼」

平成 26 年 5 月 23 日～24 日に茨城県日立市で行われた第 62 回日本医療社会福祉協会全国大会において「東日本大震災支援チャリティーバザー」を開催いたしました。初めての開催で準備に不慣れなところも多かったのですが、ハンドタオルやポーチといった手取りやすい小物から中にはハイブランド（シャネルやディオール！）のものまで多数の品物が集まりました。

講演や分科会の合間を縫って多くの会員の皆様にお立ち寄りいただき、盛況のうちに無事に終了することが出来ました。会員の皆様には品物の購入と同時に、支援活動に対する温かいご支援の言葉をかけて頂き、災害支援チームの私たちにも明日への支援につながる力を頂く場になりました。

また、バザー会場が日立シビックセンターの 1 階であったこともあり、多くの地域住民の皆様にもお立ち寄りいただきました。商品を購入していただいただけでなく、同時開催していた「東日本大震災茨城写真展」を見ながら日立での被災体験をお話し下さる方もいらっしゃいました。会員の皆様だけでなく、地域住民の皆様とも思いがけない交流が出来、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

皆々様のご寄付と暖かいご支援の気持ちは、確実に金額という形として現れました。会計報告は下記の通りです。

本当にありがとうございました。

バザーの開催は今後も企画していきたいと考えておりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

バザー売上	:	101,150 円
寄付金	:	55,136 円
医療ソーシャルワーカー支援のバトン販売	:	12,000 円
<hr/>		
合計	:	168,286 円

最後になりましたが、バザー開催にあたり品物を提供して下さった皆様、会場の手配をして下さった茨城県ソーシャルワーカー協会の皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

3. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 協力員募集】

現 地

現在、1日にあたり上限2から3名で募集しております。

現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。

活動日程につきましては下記のようにお願い致します。

期 間： 平日3日以上、

受入日： 月曜日 と 水曜日 （土、日、祝日は活動致しません。）

但し、**上記以外であれば支援活動が可能な場合は**現地担当までご相談ください。

※ 出発2日前までには（到着時刻等を含めて）は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回予定 8月 調整中です。

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から 2011 年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。

尚、売上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。



※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【6.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー 災害支援」で検索すると見つかります。



URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

4. 災害支援ニュース発行のお知らせ

2014年度災害支援ニュース発行は災害支援チーム事務局が担当することとなりましたのでお知らせ致します。
発行編集担当は以下の3名です。

編集担当　：　西田、富永、金子

発行は月1回、15日を目標と致します。
すでに6月も半ばになりましたが、
今月号を「平成26年 6月 15日 第4巻（第1号）」として発行致します。
今後ともご協力お願い致します。

5. あとがき

災害支援チーム事務局から

- ・ やっと1号発行まで辿りつきました。3名とも初めての編集・発行です。
ご一読下さいました皆様、お気づきの点がありましたらどうぞ指摘ください。
ご協力お願い致します。
次回発行は7月15日です。

- ・ 最後になりましたが、前任の災害支援ニュース発行担当の皆様から心から感謝を申し上げます。

2013年度災害支援ニュース発行を担当された

徳島県医療ソーシャルワーカー協会様、

鴨島病院医療ソーシャルワーカーの皆様、

そして、窓口となってご協力下さいました 井手之上様、

ありがとうございました。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 26 年 6 月 15 日 第 4 巻 1 号
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局